

研修会レポート

平成27年10月14日(水) 19:00~20:40 福島テルサ

研修委員 山口由弥

* 製品説明 シムビコートタービューヘイラー

特性

ブデソニドは親水性が高いので、粘液層を通過しやすく、効率よく炎症細胞に達する。

吸入後、1分から速やかな効果が期待できる

効率よく炎症部位に達する粒子サイズ

SMART療法(SymbicortMaintenanceandRelieverTherapy)朝夕2回の定期吸入に加え、発作時に追加吸入できる

* 一般講演 『当院における吸入指導の取り組み』 公立藤田病院 薬剤部 蓬田隆治先生

- ・喘息治療目標達成の根底には、患者教育・吸入指導がある。
- ・入院時の吸入指導の実践：まずは実際の吸入器に触れて吸ってもらうことから。できていないところを繰り返し指導し、退院時には確実に吸入できることを確認する。特に、吸入前の息吐き出し・胸いっぱい吸入、息止めを重点に指導。
- ・入院時は朝晩しつこくベッドサイドに行って吸入指導。
- ・1回2吸入の理解がなかなか難しい方が多い。(充填操作が理解できない)
- ・どうしてもうまくいかない場合は主治医に連絡し、デバイスの交換や内服薬・貼付剤に変更することもある。
- ・吸入指導は、自己管理能力を高めるのを手助けすることが大切。
- ・繰り返しの、吸入指導、医師とのコミュニケーションが重要。

* 特別講演 『やまがた医療連携吸入指導依頼票の導入と吸入指導の重要性について』

山形大学医学部附属病院 第一内科 柴田陽光先生

- ・吸入指導依頼票を処方箋と一緒に発行し、翌日FAXで返信してもらっている
- ・山形(高畠町)の現状
気流閉塞の有病率は男性16.4% 女性5.8%
年齢が高くなるにつれて有病率は高く、重症度も高い。
死因を解析すると、呼吸器系疾患(肺がん、肺炎含)は31%とインパクトあり
- ・呼吸器内科専門医が少なく、公平な診療は難しい
- ・COPDは日本における死因第9位 500万人患者がいるといわれているが、治療を受け

ているのは約20万人。

・また、吸入ステロイドの使用率は43.5%、そのうちきちんと使用できているのは47% 喘息による死亡率は低下しているが、コントロール良好は30% ステロイド吸入は十分に普及されていない。

・質の高い吸入指導を広めていくには

非専門医にもその薬剤効果を理解してもらおう。しかし、呼吸器疾患以外の診療で多忙であるため、薬局薬剤師が吸入指導に協力してくれるのであれば大きなサポートとなる。

・吸入療法は効果が高いが、難しい

高齢患者は、視力の衰え、手先の不自由、握力・吸引力の低下など、吸入を妨げる要因が多く吸入効果の利点を生かせていない。

・どうすれば吸入療法の利点を生かせるか

患者がどこまでできるかを把握する 行える範囲で最適の吸入治療を選択

初回時、医師による吸入指導実践 薬剤師による積極的な吸入指導

使えているかどうかをフィードバックしてもらえるだけでも医師側は大いにありがたい。

・吸入指導はアドヒアランス改善、ピークフロー値の改善になる。

・山形では、医療連携吸入指導勉強会を定期的に関き、認定吸入指導薬剤師などの制度を取り入れている。

〈感想〉

吸入指導は薬局薬剤師において非常に責任のある業務であり、また期待されている業務であると感じた。福島市でも、基幹病院との連携が行われ始めたところであり、確実にフィードバックを行うようにしたい。